

いばらき



# 県シ連だより

IBARAKI Prefecture Silver Human Resources Center Federation

令和2年  
1月  
発行



「四重唱」(北海道鶴居村)

撮影/公益社団法人

龍ヶ崎市シルバー人材センター

永井 正さん

## 目次

連合会会長挨拶	2
茨城県知事挨拶・茨城労働局長挨拶	3
特集「シルバー世代の幸せ物語」	4
センター訪問	8
会員の声	10
利用者の声	11
就業活動レポート	12
令和元年度高齢者活躍人材確保育成事業技能講習の実施状況	14
配分金収入に対する所得税の取り扱いについて	16

特集

## シルバー世代の 幸せ物語



# 年頭のあいさつ



公益社団法人 茨城県シルバー人材センター連合会

会長 綿 拔 剛

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様方には、ご家族お揃いで健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、昨年中は連合会に対し、各般に亘りご理解とご支援を賜りましたこと、厚くお礼申し上げます。

さて、我が国の65歳以上人口は推計で3,588万人と国民全体の28.4%を占め、「団塊の世代」が75歳以上となる2025年には3,677万人に達して、7人に1人が75歳以上の高齢者になると見込まれています。このため、超高齢社会を支える組織としてシルバー人材センターへの期待は一層大きなものとなってきております。

しかしながら、近年は「会員数の減少」、「事業実績の停滞傾向」などにより、私どもシルバー人材センターを取り巻く環境は厳しいものがございます。さらに、同一労働同一賃金や消費税のインボイス制度の導入等の新たな課題も出てきております。

このような中、私たちは「会員の拡大」、「就労の開拓」、「安全・適正就業の推進」などに積極的に取り組み、シルバー人材センターの基盤の充実を図っていく必要があります。特に「会員の拡大」につきましては、全国シルバー人材センター事業協会による第2次会員100万人達成計画の3年度目に入りますので、これまでの取り組みを検証しつつ、国からの委託事業である「高齢者活躍人材確保育成事業」を最大限に活用して、会員拡大への諸施策を一層推進してまいります。

当連合会といたしましては、各シルバー人材センターのご協力をいただきながら、これまで以上に各種事業を積極的に推進し、シルバー事業の充実に努めてまいり所存でございますので、引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、シルバー人材センターの益々の発展と、会員、役職員の皆様方にとって安全で明るい年になりますよう心から祈念申し上げ、年頭のあいさつといたします。

謹賀新年

## 公益社団法人 茨城県シルバー人材センター連合会 役員名簿

会 長	綿拔 剛	(公社) 茨城県シルバー人材センター連合会
副 会 長	加倉井 健一	(公社) 水戸市シルバー人材センター
副 会 長	安田 和夫	(公社) かすみがうら市シルバー人材センター
常務理事	稲葉 精一	(公社) 茨城県シルバー人材センター連合会
理 事	塚本 将男	(公社) 龍ヶ崎市シルバー人材センター
理 事	根岸 幹和	(公社) 牛久市シルバー人材センター
理 事	江連 史郎	(公社) 結城市シルバー人材センター
理 事	石田 正雄	(公社) 行方市シルバー人材センター
理 事	秋山 康俊	(公社) 古河市シルバー人材センター
理 事	瀬谷 正志	(公社) 那珂市シルバー人材センター
理 事	鈴木 博之	(公社) 大洗町シルバー人材センター
監 事	坂本 和重	公認会計士・税理士
監 事	大山 百合子	(公社) 東海村シルバー人材センター

# 新年のごあいさつ



茨城県知事

大井川 和彦

新年あけましておめでとうございます。

皆様方には、清々しい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

一年の始まりにあたり、本年も新しいチャレンジに取り組み、日本だけでなく、世界からも注目される、ワクワクするような、魅力あふれる県づくりに邁進していく決意を新たにしております。

また、先般の台風第19号等で被災された皆様が平穏な生活を取り戻すには道半ばでございますので、引き続き全力で復旧・復興に取り組んでまいります。

さて、我が国の高齢化は、世界でも類を見ない速度で進行しており、2065年には、総人口のうち約4人に1人が75歳以上という超高齢社会の到来が見込まれております。

そのような中、地域の高齢者の就業機会を確保し、生涯現役で社会参加の促進を図るシルバー人材センターへの期待は非常に大きくなっております。

県といたしましても、関係団体や市町村などとの連携を図りながら、高齢者の多様な就業機会の確保と就業意識の醸成に努めてまいりますので、皆様方におかれましても、“健康長寿”を保ちながら、これまでの知識や経験を十分に活かして、より一層のご活躍を期待しております。

結びに、公益社団法人茨城県シルバー人材センター連合会の益々のご発展と皆様のご健勝、ご多幸をお祈りいたしまして、新年のあいさつといたします。



厚生労働省茨城労働局長

福元 俊成

あけましておめでとうございます。

シルバー人材センターの皆様方には、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は私ども労働行政の業務運営に対し、格別のご理解とご支援をいただき、心より御礼申し上げます。

ご存じのとおり、我が国は世界でも例を見ないほど急速な高齢化が進んでおります。総務省の報告では、令和元年9月の総人口に占める65歳以上の高齢者の割合は28.4%に達して過去最高となり、就業者数も15年連続で増加し862万人と過去最多になっております。

令和元年9月に開催された「第1回全世代型社会保障検討会議」では、安倍首相より、「元気で意欲あふれる高齢者が、年齢にかかわらず働くことができる環境を整えることが必要だ。『人生100年時代』の到来を見据えながら、改革をさらに検討していく」との発言があったところです。

そのような中で、シルバー人材センター事業は、地域高齢者の多様な就業機会を確保し、高齢者が生涯現役で社会参加していくことを支援するという観点からも、今後益々重要な役割を担われるものと確信しております。

会員の皆様には、連合会、各拠点が一体となり、会員の拡大や新たな就業機会の開拓、更には、現役世代を支える分野やサービス業等の人手不足分野での派遣就業事業等、シルバー人材センター事業のより一層の推進をご期待申し上げます。

結びに、今年一年の皆様方の益々のご健勝とご発展を祈念申し上げまして、新年のご挨拶といたします。

# シルバー世代の幸せ物語

茨城県生涯学習  
社会教育研究会

長谷川 幸介



## プロフィール

長谷川幸介(はせがわこうすけ)

1950年 函館市生まれ。

1975年 茨城大学人文学部  
経済学科卒業。

専門分野は、教育法学論、生涯学習論、  
地域社会論

## 主な経歴

茨城大学准教授

NPO法人 未来ネットワークひたちなか・ま 顧問

NPO法人 ひとまちなっと 理事

NPO法人 ライフガード あんしん 理事長

茨城県生涯学習・社会教育研究会 会長

## 思えば遠くに来たものだ

昭和25年、北海道函館市で男ばかりの3人兄弟の末っ子で生まれました。

父は国鉄職員(青函連絡船)でした。今思えば、貧しかったのかもしれませんが、でも、当時はほとんど気にはなりませんでした。2つ折りのちゃぶ台に数少ない副菜がてんこ盛りのような食事でしたが、家族5人の夕餉(ゆうげ)でした。

高校卒業後、茨城大学に進学することになり、津軽海峡を渡って、人生の旅に出ました。道外に出て、「幸せになろう」と思ったのです。そして今、茨城県水戸市で暮らしています。函館から水戸へ、「思えば遠くに来た」ものです。

小学校の頃でした。たらいが洗濯機に代わり、ブラウン管の白黒テレビが茶の間に登場してきました。びっくりでした。月光仮面が裕次郎になり、東京オリンピックをカラーテレビで観戦し、気が付くとビートルズが羽田空港に降り立っていたのです。やがて、電話も携帯電話になりスマホの時代になってしまいました。食生活も激変し、着る物もすっかり様変わりです。

昭和31年でした。厚生省は国連の報告書を参考にして65歳以上を高齢者に決めました。女性は67歳、男性は64歳が平均寿命の時です。

まだ、高齢化率が2~3%だったのです。100人中2~3人だけが65歳以上だったという訳です。生活スタイルも、平均寿命も大きく変わり、本当に「思えば遠くに来た」ものです。

## 幸せを求めて走り続けた!

振り返ると、ずっと走り続けてきました。就職、結婚、子供の成長……。もちろん、幸せになりたくて走り続けてきたように感じます。こうして、私たちシルバー世代は、目まぐるしく変わり続ける社会の中で、年齢を重ねてきたのだと思います。家族も、友人たちも、そして自分も。

人生を登山と置き換えると、もう下り坂です。現役時代は上り坂で、わき目も振らずに登り続けました。周りの景色なんて見ている余裕もありませんでした。だから、這いつくばって、坂の斜面を見続けてきたのかもしれませんが、でも、下り坂になると、ガラッと変わりました。景色が遠くまで見えるのです。三途の川まで見えてしまいます(笑)。はっきりわからなくても、精一杯走り続けた頃には見えなかった「幸せの正体」もおぼろげながら見えてくるように思います。

リボタンDを片手に、残業を苦勞と思わずに走り続けた上り坂だったのです。本当に我ながらよく頑張ってきたと思います。

## 幸せって何なのだろう (その1)：不幸だと思う時

今、自分がシルバー世代になってきて強く感じる場合があります。私たちが追いかけてきた「幸せ」って一体何だったののだろうかということです。あんなに汗水流して、あくせく働き続けてきたのはどうしてなのだろうと思うのです。

幸せを考えるために、不幸せになることから考えてみました。今の自分を不幸せに感じる時は、次のように考えている時だと気づきます。

●第1は、今の自分を「若い時の自分」と比べる時です。

色んなことが苦も無くできた若者時代の自分と比べると、今はできないことばかりなのです。だから、今の自分を嘆くのかもかもしれません。若者時代はとても多くの誘惑に満ち溢れていました。でも、比べる対象にはこれほど不向きな内容はありません。青春時代と比べて勝ってこないでしょう。今の自分を10年後の自分と比べてみてください。きっと、今の自分が素敵に見えるはずなんです。

●第2は、できない理由を過去の自分の所為(せい)にする時です。

「もうちょっとしっかり体を鍛えていればよかった」とか「もう少し妻のことを気にすればよかった」とか。過去の行状が現在を決める(因果応報)と思う時です。確かに「今の自分につながる思い出」はたくさんあります。しかし、本当に今の自分を決めるのは昨日の自分なのでしょうか。多くの思い出の中から引っ張り出す出来事は今の自分を納得させるために選び出した思い出なのではないでしょうか。「今の自分が病気がちだ」とすればその理由を探すでしょう。「夫婦仲がうまくいかない」ならばその原因となった思い出を探すでしょう。それはもう変えられないのです。変えられない昔に理由を求めるのは不幸の始まりのように感じています。明日の自分が今の自分を決めるとは思えないでしょうか。

## 幸せって何なのだろう (その2)：今を幸せに感じるには

「明日、これがしたい」と思えるなら、明日のために今があると思えるような気がします(アドラー心理学)。そうすると、今の自分を素直に肯定できるのではないのでしょうか。「あれもない、これもない」ではなく、「あれもある、これもできる」と我が身を振り返る眼差しを替えられればいいのです。

条件は自分で考えればいいのだと思いますが、私は3つぐらいに絞り込んで、現在の幸せの条件を考えています。

①朝を迎えられる健康です。身体の健康や心の健康に加えて、縁の健康という「3つの健康」をモノサシにしています。縁の健康というのは、人間の健康が一人ぼっちではできないと思うからです。仲間との存在と言えるかも知れません(家族も含めて)。

②友達がいるということです。一人暮らしなんか怖くありません。怖いのは「一人ぼっち」なのだと思います。笑いあえる仲間、頷いてくれる仲間、この時代を生き抜いてきた同志です。そして、社会貢献の意思です。

③暮らしを支えられるお金です。そんなに一杯持っても、冥土には持参できません。だから、日々の暮らしを潤す程度のお金でいいのだと思っています。お金を貯めることは手段です。決して目的ではありません。何かの目的のためにお金は必要なのです。それだって限りがあるものでしょう。際限ない欲望は餓鬼の振舞だと思います。

## 「幸せ物語」は継続中! (シルバー人材センターの理念と活動)

私たちが働き盛りだった1980年代に、シルバー人材センターは正式に制度化されています(1986)。今から33年前、丁度、私たちの親世代が定年退職を迎える頃でした。高齢化社会の到来を前にして、定年退職後の「新しい高齢者

の雇用・暮らし方」が考えられていた時期です。

つまり、戦後日本の大きな変化の中で、高度成長が終わりを告げ、「日本人の幸せ観」が急激に変わろうとしていた時、シルバー人材センターは親世代の思いを受けて成立してきたのです。親世代も、私たちと同様に「幸せのあり方」を求めていたのだと思います。その思いを受け継いで、今のシルバー人材センターがあるのです。そして、この「日本人の新しい暮らし方」を創造するためのエネルギーは、私たちの世代に託されているのだと言えるでしょう。

だから、シルバー人材センターの理念である「自主的・主体的」運営、「共働・共助」の活動は、高齢者の雇用（働き方・社会貢献のあり方）を通じて、「新しい暮らし方」を産み出すことを目的にしたものだと思います。「幸せ物語は継続中!」ということです。令和の時代を迎えることになりました。さて、私たちはどんな幸せのカタチを創ろうとしているのでしょうか。

サラリーマン（パーソン）が2代続く生業（なりわい）となってきたのは、私たちの時代からでした。親も子もサラリーマン家族という形態はそんなに昔からあったわけではありません。だから、退職後の人生設計が大きな課題となったのはこの30～40年前からでした。私たちはサラリーマン人生を送った1～3代目位でしょうか。

定年退職したら、もうサラリーマンではありません。妻ももう「サラリーマンの妻」ではありません。新しい家族・夫婦・個人の暮らしを創らざるを得ないのですが、手探りで、おずおずと、試し始めている最中です。夫婦の距離感や社会への

参画経験、仕事のカタチなど戸惑いながらの一步です。



そんな思いでつながった親世代が連携したのが「生きがいづくりと仕事」のシルバー人材センターだったと思います。

だから、シルバーの仲間づくりが私たちの幸せづくりに大きなヒントと強い支えになってくれるに違いありません。

### 「3つの間」(時間・空間・人間)が変化する (シルバー人材センターの役割)

定年退職は、幸せのモノサシである「3つの間」(時間・空間・人間)を大きく転換させました。その転換を考えながら、シルバー人材センターの役割を見つめてみましょう。

#### ● 時間：自分の時間と社会の時間

会社時間は私たちをずっと追いかけてきました。カチカチカチカチ…。家事時間も。退職するということは、この時間から解放されることでした。でも、出勤時間になっても行く先が無くなるのです。どこへ行けばいいのでしょうか。自分時間は、自分で一日、一月、一年の時間を決められます。退職間際の時間の速いことと言ったらありゃしない。そんな時間から離れた時、私たちはほかの時間を求めて戸惑っているようです。

自分で決めて自分で作るのが「自分時間」です。自分時間を決めて動き出すには、勇気も、決断も必要ですが、一番重要なのは家族と友達ではないでしょうか。会社の友だちではなく、趣味や地域の友だちです。シルバー人材センターはそんな仲間にあふれていると思えるのです。

#### ● 空間：会社空間と地域社会

サラリーマンだった頃の空間(場所)と全く異なった空間で暮らすことになりました。外出する時に「行く場所がない」と考えるのではなく、「行く場所を創る」と考えたほうが楽しいに違いありません。暇つぶしの空間ではなく、生きがいを持って出かけられる場所です。

シルバー人材センターは、「生きがいと仕事」を通して、地域社会の中にその場所(空間)を産み

出してきたのだと思います。会社空間ではあまり縁がなかった地域社会が私たちの舞台のように感じます。もちろん、この舞台の上に立ちながら、舞台を改良していくことになるはずです。

### ●人間(じんかん)：人間関係とシルバー人材センターの特色

上下関係を軸に構成した会社の人間関係とは違う世界があります。上下ではない、「新しいつながり方のチーム」が大切に思えます。それぞれの個性と役割を活かしあう「シルバー人材チーム」です。会員がこのチームで活躍するには、「家族の了解」が大切です。家族も理解者・支援者という名の「チームメンバー」になってもらうことも重要です。それは、新しい家族関係の創造です。「自分で決めて、自分で活動する」ことや「チームの一員としてのプライドと責任」こそが新しい人間関係の要だと考えます。

### 売上高は「人のつながり高」

会社の売上高もシルバー人材センターの売上高もお金です。しかし、ここには大きな違いがあります。シルバー人材センターの「1万円の売り上げ」は「1万円分の人のつながり」という大切な思いが込められています。地域社会や住民のニーズは、同じ土地で暮らし、同じ思いで幸せを求め続けた仲間のニーズにはほかなりません。だから、仲間との「1万円分のつながり」こそシルバーの売り上げなのだと思えます。

私たちは会社社会の中で、「売上高と言えば現金高のことだ」と思い続けてきたのかもしれませんが。しかし、売上高は実は「どのくらいの人とつながったのか」「どの程度の社会貢献ができたのか」を示すものに違いありません。会社員時代と違って、軽視してきた多様な人間とのつながりを取り戻す活動です。困った問題に直面した仲間への支援(社会貢献)こそ生きがいなのだと思えます。

台風19号による浸水災害が県内各地で起こりました。その悲惨な状況に心痛める人でありた

いと思います。そして、復旧活動に自分のできる形で参加できる県民でありたいと思います。そのような思いが取り結んだ「幸せネットワーク」がシルバー人材センターであり、売上高は「人のつながり高」なのです。そう考えると、走り続けてきた自分の人生に何となくけじめがつきそうな気がするのです。

### 会社の現役と人生の現役： 「新『役』聖書」のシナリオ

人はいつか死ぬことになっています。どんなに頑張ってもいつかは終わりが来るということでしょうか。会社も定年退職という名で終わりを告げられました。会社の終わりは衝撃でしたが、しかし、人生の終わりという訳ではありません。違う人生の始まりだったような気がします。今まで見てきた景色とは全く異なった景色が広がっています。

人生は現役だし、新しい人生の始まりだということ。仲間だっただくさんいるじゃないですか。笑いあったり、注文を付けあったり、いっしょに語り合ったりする人生仲間がいるじゃないですか。

「人は役割を生きる動物だ」と言われています。夫婦役、(祖)父母役やサラリーマン役、近所のおばさん役などなど。定年退職はその役割を変換させるチャンスです。サラリーマンは死ぬまでサラリーマン役を演じるのでしょうか。今までと異なった役割分担が必要です。夫婦の役割分担も地域社会の役割分担も、年齢による役割分担も「新しい役」「新しい役割分担」に変化するべきなのでしょう。「新役」です。

シルバー人材センターは新しい役割を創り、新しい役割を生きていく仲間集団だと思えます。だから、私たち世代の人生に幸せの「新『役』聖書」のシナリオを示してくれる存在のような気がします。切り替えられないで、退職後も「旧『厄』聖書」を生きている人も少なくないようですが。

シルバー世代の冒険を描く「幸せ物語」は今も継続中です。私たちの明日に「つづく」です。

# センター訪問

## 地域のニーズに応えるために、 多様な取り組みで事業を展開

公益社団法人 龍ヶ崎市シルバー人材センター

龍ヶ崎市は、首都東京から50km圏内にある人口約77,000人の都市です。牛久沼などの豊かな自然に恵まれ、郊外には穀倉地帯が広がっていますが、都心から近いために龍ヶ崎ニュータウンやつくばの里工業団地など都市化も進んでいます。毎年7月の八坂神社祇園祭で行われる伝統芸能「撞舞」(国選択・県指定民俗文化財)は有名です。また最近は、市内各所でテレビや映画のロケが行われることも増えてきました。

龍ヶ崎市シルバー人材センターの9月末時点の会員数は481名(男性342名、女性139名)で、就業率は76.7%です。発注者の内訳別では、公共が24.4%、民間企業が47.7%、一般家庭が27.8%(以上平成30年度)となっています。剪定や除草の依頼が多い傾向にはありますが、就業会員の確保が年々難しくなっています。入会時に希望する仕事を伺ってきましたが、需要の多い除草作業は希望者が少なく、施設管理などの希望が多いのが現状です。そこで、除草作業希望者については就業前に講習会で安全や基本技術を学んでいたものを、職場内訓練(OJT)に切り替え、増加する仕事にも応えられるよう工夫しました。ワークシェアリングも年2回実施して、なるべく多くの会員に就業してもらえるよう努めています。

会員募集については市の広報紙やリーフレットを活用し、入会説明会を毎月2回開催してきました。入会促進を図るための新たな取り組みとして、女性に限定した入会説明会と休日開催の入会説明会も行っています。その結果平成30年度は57名の入会があり、入会者の平均年齢は68.7歳でした。10年前は66歳でしたので、企業の雇用延長などからシルバーの入会年齢にも影響



- 住所 〒301-0004 龍ヶ崎市馴馬町3202番地
- TEL 0297-64-3641 FAX 0297-63-0011
- E-mail dragon-s@guitar.ocn.ne.jp
- 業務時間 月曜日～金曜日 8:30～17:15
- 最寄駅 関東鉄道竜ヶ崎線竜ヶ崎駅より徒歩15分



が出ているようです。

就業先開拓では、リーフレットを作成しイベントでの配布や企業訪問を行っています。他にも介護保険事業(龍ヶ崎市シルバー人材センター訪問介護事業所)や指定管理者制度の受託に力を入れてきました。特に平成29年度より事業開始した介護予防・日常生活支援総合事業の訪問型サービスは、県内の拠点で唯一事業所指定を受け、利用者数は年々順調に推移し、女性会員の就業拡大につながっています。より質の高いサービスが提供できるよう今後も努力していきます。指定管理では、駐輪場の受託件数を3件に増やすことができました。シルバー派遣事業も、現在は10社へと拡大し33名の会員を派遣しています。

サークル活動では、旅行会・ゴルフ会などがありますが、女性会員交流会で出た意見をもとに、新たに

ウォーキング会を発足させ活動しています。このような活動を推進することが退会防止にもつながるものと考えています。





# 会員と事務局の距離が近く、 住民サービスを最優先に活動

## 公益社団法人 大洗町シルバー人材センター

- 住所 〒311-1305 東茨城郡大洗町港中央23
- TEL 029-264-8828 FAX 029-264-8829
- E-mail ooarai1@sirius.ocn.ne.jp
- 業務時間 月曜日～金曜日 8:00～16:00
- 最寄駅 鹿島臨海鉄道大洗駅より徒歩15分



大洗町は県都水戸市の南東に位置し、太平洋に面した漁業と観光が盛んな町です。広大な砂浜や磯遊びができる海水浴場に加え、アクアワールド大洗水族館や大洗マリタワーなどの通年型観光施設も多く、県内でもトップクラスの誘客数を誇っています。また、重要港湾である大洗港は北海道と首都圏を結ぶ定期フェリーの航路があり、人と物流の拠点です。

大洗町シルバー人材センターの現在の会員数は、179名(男性108名、女性71名)です。会員数の関係でローテーションを組むのが困難なことから、委任や請負のみで派遣は行っていませんが、会員数は前年度よりやや増加しました。人口減少や定年延長などの影響もありますが、大洗町は農業や漁業の従事者が多いため高齢になっても現役で仕事をされている方が多く、入会年齢が高くなってしまいが課題です。

除草や植木剪定など屋外の作業依頼が多い反面、会員さんの希望する仕事は室内が多くなっています。



屋外の仕事を希望した方でも、体がついて行かずに辞めてしまう方もいますので、対応の難しさを感じます。また、観光地ですので夏場はホテルや旅館から、食器洗いと配膳の依頼が増えますが、対応できる会員数の関係ですべてはお引受けできない状況です。他には、ハウスマンテナンスやハウスクリーニングの仕事があります。これは不動産会社からの依頼で、アパートや借家の入退去時に行う室内清掃の仕事です。公共の仕事の依頼もありますが専門の業者さんもいますので、シルバー



では児童公園や道路の隅などの細かい除草等をやらせてもらっています。個人宅の契約金額は減少傾向にあります。ただ、シルバーとしては高齢者世帯など、住民の方ができないことや不便に感じることを行うのが基本だと考えて取り組んできました。事務局でも、現場の事前確認に職員が必ず行くようにしています。会員さんも直行直帰はせず、必ず事務局には立ち寄ってもらい、作業内容や安全確認、会員さんの体調チェックなどを行います。そのため事務局は朝6時30分から18時まで空けていますが、これは大洗だけかもしれません。

会員募集については、パンフレット等の配布だけではなかなか結果が出ませんので、先輩会員からのお誘いを一番大切にしてきました。また、町のイベントではパンフレットを配る際に、特産品のサツマイモをつける工夫もしています。入会説明会は随時開催で、1人でも開催します。

大洗町シルバー人材センターは、小さい組織ですので職員もほとんどの会員さんの名前と顔を理解しているため、家族的な雰囲気があることが運営上の強みにもなっています。

## 仲間づくりを通して、人間的な幅が広がった

公益社団法人 石岡地方広域シルバー人材センター

おかだ みのる  
岡田 實さん (86歳)



### 入会したきっかけは?

行方市の出身ですが、仕事の関係でずっと都内に住んでいました。定年で退職し平成10年に石岡に越してきた時、シルバーのパンフレットや会報を見て65歳の時に入会しました。仲間づくりということもありましたが、私自身が花の栽培に興味がありセンターでそのころ自主事業の花苗栽培に積極的に取り組んでいたことも大きな理由でした。

### これまで担当された仕事は?

最初は花苗の栽培を担当しましたが、素人なので1年目は上手いきませんでした。どうにか2年目になって、小美玉市や石岡市で購入してもらえたりJAの直売所にもおいてもらえるようになりました。その後は、市民会館やグリーンパレスの受付事務などを担当しました。現在は、シルバーの直売所で販売の仕事をローテーションで行っています。

### 苦勞されたことや心掛けていることは?

現役時代は役所勤めで販売の経験はまったくなく、最初の頃は「ありがとうございます」の一言がなかなか言えませんでした。直売所には地域の高齢者が立ち寄ってくれて会話をする機会も多いので、みんなで相談して丁寧な言葉遣いでコミュニケーションが取れるよう心掛けています。販売している野菜の料理方法を聞かれることもあります。その時だけは女性会員にフォローしてもらっています。

### 仕事以外の活動は?

以前は副理事長。現在は互助会の会長を務めています。年3回の旅行や新年会・サークル活動など活発に会員の親睦を図っています。シルバーは仕事だけでなく、仲間づくりの場としても素晴らしい団体です。堅い仕事をしていた私も、第2の人生として親しい友人もでき人間的に幅が広がったと思っています。



## ソフトボールにかけた情熱で、シルバーを言い訳にしない

公益社団法人 潮来市シルバー人材センター はやし ふみかず 林 文一さん (78歳)

### 入会したきっかけは?

シルバー人材センターは、私には向かないと思っていました。そんな私が入会した理由はソフトボールです。潮来市シルバー人材センターには、ソフトボールチームがあります。高校で女子ソフトボール部の顧問をしていた経験から、退職後も別のチームでソフトボールを続けていたのですが、ぜひシルバーのチームに入ってほしいと誘われ70歳の時に入会しました。

### これまで担当された仕事は?

現在は、公民館の夜間管理と受付です。事務局に囑託として勤めたこともあります。あやめ祭りの駐車場管理や苗床運搬なども行いました。引っ越しで一度シルバーを辞めましたが、潮来に戻ることができ再度入会しました。公民館の受付をやっていると、利用者に元教え子がいて「先生、若くて変わらないね」と言われ、励みになります。

### 心掛けていることや印象に残っていることは?

シルバー魂というか、シルバーを言い訳にしないことです。駐車場管理を担当した時、お客様が出ていく際に私は座ったまま頭を下げていたのですが、ある会員さんは立ち上がって明るく挨拶をしたのです。これを見た時に気付かされました。仕事の正確さは当然ですが、接遇にも心を込めなくてははいけません。やっぱりシルバーだから仕方ないなんて思われないうにしたいですね。

### ソフトボールについては?

私は潮来市のソフトボールチームの中で、最年長ピッチャーだと思います。子や孫の世代とも対等に戦うので、年齢を言い訳にはできません。ソフトボールで学べるのはチームワークです。ミスを誰かがカバーすると勝利につながるのです。その気持ちが仕事の中の人間関係にも生かされていると思います。

## 敷地の美化に欠かせない シルバーさん

公益社団法人笠間市シルバー人材センター

不二製油株式会社 関東工場  
業務チーム 下条 真紀子 様

私ども不二製油株式会社は、大阪府泉佐野市に本社を持つ不二製油グループの日本国内事業展開部門として、植物性油脂、業務用チョコレート、乳化・発酵素材、大豆加工素材の四事業を軸に、独自の技術で素材・製品を供給しており、岩間工業団地の一角にある関東工場では1994年の創業以来、業務用のクリームやチョコレートなどを製造しております。

食品工場である弊社にとって、敷地内の整備は欠かせません。以前は空いている時間に社員が手分けをして草刈りなどを行っていましたが、約1万9千坪ある敷地には次から次へと雑草が生い茂り、管



理するのが大変でした。

そんな時にシルバー人材センターさんと出会い、十数年のお付き合いになります。主に草刈と低木の剪定をお願いしておりますが、暑い中でも元気に作業され、仕事が早く丁寧で、いつも大変感謝しております。

今後とも更なるご協力をお願い申し上げますと共に、会員の皆様のご健康を心よりお祈り申し上げます。



## シルバーの皆様に感謝

公益社団法人坂東市シルバー人材センター

明王山慈光寺  
寺庭婦人 竹林 昌代 様

私が暮らすのは明王山慈光寺という寺院で、通称「弓田のポックリ不動尊」と言われて、古くから参拝される方の多い所でございます。

こちらに嫁ぎまして50年以上になりますが、以来、参拝にみえる信者さんや檀家さんに少しでも気持ちよくお参りしていただけるように、境内の手入れに気を配ってまいりました。

20年ほど前にシルバー人材センターの存在を知り、それからというもの春夏は除草作業を中心に、秋冬は落ち葉や枯れ葉の片付けなど、境内の美化に関しましてはほとんどシルバーの皆様をお願いしている次第でございます。



現在来ていただいているシルバーの方とは長いおつきあいの方が多く、仕事の手順も理解していただいておりますので、いつも細かなところまで気配りをしながら丁寧に作業をしていただいております。

お参りに見えた方々に「きれいな境内ですね」とお褒めの言葉をいただきますと、シルバーの皆様のお陰と、本当に感謝にたえません。ありがとうございます。

今後ともどうぞお体に留意されまして、末永くお付き合いくださいますよう宜しくお願い申し上げます。

# 就業活動 レポート



## 安全で丁寧な作業を心掛け、 地域のニーズに応える

(草刈り事業)

### 公益社団法人 境町シルバー人材センター

境町シルバー人材センターでは、7～8名の会員が「草刈り班」として公共施設から一般家庭まで、草刈り作業を専門に行っています。草刈り班は62～80歳の男性会員で構成され、現場に応じて二班に分かれることもあります。通常は全員で活動しています。依頼があると職員がまず現場を確認に行き、草刈り班のリーダーに連絡して体制など詳細を決めて作業に入ります。リピートも多くありますが、新規の依頼も増えてきました。作業は受注した順に進めているところですが、現在の人数ではすぐには対応できないのが課題です。

土地を管理せず放置していると荒れてしまい周囲にも迷惑がかかるので、境町に土地があって別の市町村で暮らしている方や、高齢で耕作ができなくな



せんで、トラブルや事故の発生で影響が出ないように丁寧な作業を心掛けてきました。特に飛び石などを防ぐために、防護ネットを使うようにし細心の注意を払って作業をしています。具体的な作業方法については、講習会も行っていますが現場で先輩会員の指導で学んでいくのが原則です。境町は平坦な土地が多いので、山間部のような難しさはありませんが、複数の人間で行うため基礎はしっかり学んでおかないと、事故につながってしまいます。

いずれにしても、今後のことを考えると入会者を増やすことは急務になりますので、積極的に募集に取り組んでいくしかありません。現在草刈りを担当している会員に、シルバー人材センターでの活動の目的を聞くと、お金のためというより健康に暮らしていくためという声があります。シルバー人材センターは、労働力の確保だけでなく福祉的な側面もある団体です

ので、地域の高齢者に社会参加や仲間づくりといったことも、もっと理解していただくことが必要かもしれません。定年後の高齢者が地域の中で生きていく時、シルバー人材センターに所属している意味がきつとあるはずです。

草刈り作業は毎年、新たに必要になる作業の一つです。シルバー人材センターに求められる仕事の中でもニーズの高いものですので、安全で丁寧な作業でそのニーズに応えられるよう今後も努めていきます。



た農地のある方、空き家の庭の草刈り依頼も増えてきました。工場や道路脇の依頼もありますが、担当する会員が少ないため対応しきれっていないのが現状です。さらに、屋外での作業ということもあり天候にも影響を受けやすく、当初の作業予定から大幅に遅れてしまうことも多々あります。

このような状況に対応するには、担当できる会員を増やしていくしかありませんが、会員も全体的に減少傾向にあるため、すぐには解決する方法がありま

# 技術プラスアルファで、 お客様に喜んでもらえる剪定を (剪定事業)



城里町シルバー人材センターでは、剪定・草刈り・草取りが就業全体のほぼ9割を占めています。中でも剪定は最も得意分野です。手刈りを主体に細かい部分まできっちりと行うので、植木屋さんと同じような仕上がりと高い評価をいただいています。ヘッジトリマーを使い短時間で作業をするのではなく、枝の残し方からお客様の希望を聞いてしっかり取り組んできた成果です。しかし、会員数が少なくローテーションが組めないで、できればあと10名ぐらいは剪定担当が欲しいところではあります。

剪定の技術を身につけるために、以前は集合講習会に参加していましたが、現在はベテラン会員のマンツーマン指導をメインに、樹木の特徴から剪定の仕方まで学んでいます。剪定の集合講習で使うのは主に松の木です。しかし、松喰い虫の影響もあって城里町では庭木にもほとんど松を見かけなくなりました。そのようなことから、実際の現場で剪定する木の種類毎に先輩から学ぶように変更しました。ベテランの会員さんの中には、造園会社に勤めていた方も数名います



ので、プロから学んでいるのと同じです。ただ、ハサミの使い方から学ぶという訳にはいきませんので、剪定を担当する会員さんは自宅に樹木があって、多少でも経験があり、道具を持っている方がほとんどです。初めての方の場合、片付けから入ってもらい、慣れてきてから剪定について学んでもらうようにしています。同じ木でも季節によって剪定の仕方は異なります。春に葉の出るところを切ってしまうと、夏になっても葉が出なかったり枯らしてしまえば、お金をもらって仕事をし



た意味がありません。現在も数名の会員が、草刈りや剪定の後片付けをやりながら技術を学んでいます。このように取り組んできた結果、植木屋さんと変わらない仕上がりとと言われるようになった訳です。

また、プラスアルファで仕事に取り組むことも大切にしています。例えば、剪定する木の周囲に草が生えていたら「足元きれいにしてからやるからね」と一声かけて、草を刈ってから作業をします。もちろんお客様にも喜ばれますが、実際には片付けなどの効率も良くなるため、剪定に行く際には刈払機や鎌なども持参します。お客様から喜んでもらえる工夫をすることで、営業面でも効果があります。

城里町シルバー人材センターは、社会福祉協議会の中にある組織です。事務局では、会員自ら受付等も行っています。また、社会福祉協議会の活動にもシルバー人材センターとしてのノウハウを活かします。台風の際には災害支援ボランティアとして参加し、機材を保有していることや普段から組織で活動していたことで、即戦力として活躍し、たいへん喜ばれました。



# 令和元年度 高齢者活躍人材確保育成事業技能講習の実施状況

本連合会では、厚生労働省茨城労働局の委託を受けて、シルバー人材センターで就業を希望する方を対象に就業に必要な能力を身につけていただくため、技能講習を開催しています。本年度の開催状況は次のとおりです。

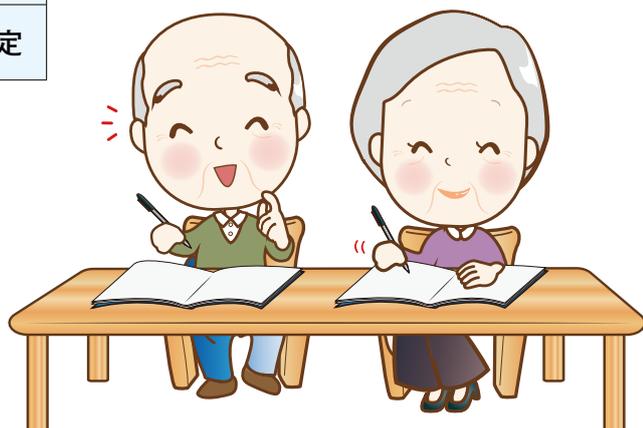
7月～  
2020年2月

開催地域	開催期間	受講者数(人)
<b>施設管理スタッフ講習</b>		
水戸市	7月30日～8月1日	9
日立市	10月9日～10月11日	10
石岡市	11月12日～11月14日	9
筑西市	12月3日～12月5日	実施予定
鹿嶋市	1月29日～1月31日	実施予定
<b>清掃スタッフ講習</b>		
日立市	9月4日～9月5日	6
土浦市	9月18日～9月19日	6
下妻市	10月24日～10月25日	5
鹿嶋市	1月15日～1月16日	実施予定
<b>刈払機取扱者講習</b>		
水戸市	9月11日～9月12日	11
土浦市	11月13日～11月14日	9
つくば市	11月26日～11月27日	13
鹿嶋市	12月10日～12月11日	実施予定

開催地域	開催期間	受講者数(人)
<b>福祉有償運送講習</b>		
石岡市	9月26日～9月27日	6
古河市	10月16日～10月17日	8
日立市	1月22日～1月23日	実施予定
水戸市	2月12日～2月13日	実施予定
<b>介護補助スタッフ講習</b>		
筑西市	8月6日～8月8日	7
水戸市	8月27日～8月29日	9
龍ヶ崎市	9月25日～9月27日	10
常陸太田市	10月16日～10月18日	9
<b>店舗業務補助スタッフ講習</b>		
龍ヶ崎市	11月27日～11月29日	7
土浦市	12月9日～12月11日	実施予定
<b>実施済14講習、実施予定9講習</b>		

※令和元年11月30日現在

※本講習は、60歳以上のシルバー人材センターに入会をして就業を希望する方のために、令和元年度から設けられました。



高齢者活躍人材確保育成事業

# シルバー会員募集中!

働く意欲にあふれる  
60歳以上の方の  
ご入会をお待ち  
しています!



## 仕事募集

気軽にお仕事をご依頼ください。

基本的に、お仕事を依頼したい市町村のシルバー人材センターに、お申し込みいただきます。公益な団体ですので、収益を目的にしていません。安心して仕事をお任せいただけます。



お問合せ先



公益社団法人

茨城県シルバー人材センター連合会

〒310-0851 茨城県水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館3階

TEL.029-244-4623

✉ [ibarakirengo@sjc.ne.jp](mailto:ibarakirengo@sjc.ne.jp)

茨城県シルバー人材センター連合会

🔍 検索

# シルバー人材センターで得た配分金収入等に対する所得税の取り扱いについて

- 配分金収入は、所得税法上『雑所得』に区分されます。雑所得の金額は、原則として雑所得の総収入金額から必要経費を控除した額です。従って、配分金収入に係る必要経費の額は、65万円以上ある場合、配分金収入から必要経費の全額を控除とします。
- 必要経費の額が65万円に満たない場合は、『租税特別措置法』第27条(家内労働者等の事業所得等の所得計算の特例)の適用により、65万円を上限として控除できます。ただし、収入金額が限度になります。
- 公的年金を受給している会員は、配分金収入とは別に公的年金等控除を行えます。
- 給与収入のある会員は、最低65万円(ただし収入金額を限度とします)の給与所得控除が受けられますが、その場合、配分金収入に係る控除額は65万円から給与所得を控除した残額が限度です。

## 必要経費の額が65万円未満の場合の例示

[設例]あるセンター会員(66歳)の年間収入は次のようなものでした。

- ①配分金収入 52万円(うち交通費等の必要経費10万円)
- ②給与収入 40万円(労働者派遣事業および職業紹介事業による賃金)
- ③公的年金収入 150万円

### 1 配分金収入及び給与収入に係る所得の控除

(最低保障額) (給与所得控除額) (雑所得(配分金所得)分の最低保障額)  
 $650,000円 - 400,000円 = 250,000円$

(最低保障額の残額) (配分金収入) [雑所得(配分金所得)分の特例経費]  
 $250,000円 < 520,000円 \rightarrow 250,000円 \rightarrow$ 最低保障額の残額で頭打ち

従って、この場合  
 $520,000円 - 250,000円 = 270,000円$ が控除後の所得となります。→ **A**

### 2 公的年金収入に係る雑所得の控除

$1,500,000 \times 100\% - 1,200,000円 = 300,000円$

割合や控除額については、「公的年金等に係る雑所得の速算表」(税務署にあります。)から算出してください。

従って、この場合、300,000円が控除後の所得となります。→ **B**

### 3 基礎控除及び納税額

配分金収入、給与収入、公的年金収入に係る所得控除後の所得合計額

**A** + **B** = 570,000円

(基礎控除)

$570,000円 - 380,000円 = 190,000円$  [課税所得額]

[課税所得額] [税率] [確定申告による納税額]

$190,000円 \times 5\% = 9,500円$

既に源泉徴収された所得税額が納税額を上回る場合は、確定申告で税が還付されます。

なお、配分金収入、給与収入、公的年金収入以外の収入がある場合の所得控除及びその他の控除については、最寄の税務署にお尋ねください。

## 第13回チャリティゴルフ大会開催 協賛金は「台風19号救援金」へ

10月30日(水)、毎年恒例の第13回チャリティゴルフ大会が水戸レイクスC.C.(城里町)において開催されました。天候に恵まれた絶好のゴルフ日和の中で、47名の参加者が腕を競い合いました。



当日のチャリティ募金45,000円は、11月11日に綿抜会長から茨城新聞文化福祉事業団「台風19号救援金」に寄付をさせていただきました。ご協力ありがとうございました。

会報「県シ連だより」編集会議メンバー

座長 (公社)茨城県シルバー人材センター連合会  
 編集委員 (公社)水戸市シルバー人材センター  
 編集委員 (公社)土浦市シルバー人材センター  
 編集委員 (公社)結城市シルバー人材センター  
 編集委員 (公社)神栖市シルバー人材センター  
 編集委員 (公社)茨城県シルバー人材センター連合会

総務課長 松本 敏明  
 管理係長 田尻 純子  
 主任 佐々木 希  
 事務局長 沼田 哲  
 主任 高群 浩子  
 総務主任 大山 隆

公益社団法人 茨城県シルバー人材センター連合会

〒310-0851 茨城県水戸市千波町1918

茨城県総合福祉会館3階

TEL:029-244-4622 FAX:029-244-4633

ホームページ <http://www.ibaraki-silver.jp>

E-mail [ibarakirengo@sjc.ne.jp](mailto:ibarakirengo@sjc.ne.jp)